

種類いっぱいのネギ

案内

私は、授業で、くすのせさんが長年育てたネギ畑を見に行き、ネギの種類が分からなかったため、自分で調べようと思ったので、これを作りました。



ねぶかネギ

根深ネギ

せんじゅうネギに代表されるネギで長ネギや白ネギともよばれています。ややかたいので、熱を加えて調理します。



しもにたネギ

下仁田ネギ

群馬県下仁田で取れます。すきやきや、なべ物に使い、になると、あまく、やわらかくなります。

めネギ

芽ネギ

ネギの芽が8cmくらいになったときにしゅうかくした物。すい物に入れたり、さしみのつまに利用します。

葉ネギ

くじょうネギに代表されるネギで、青ネギともよばれる。やわらかいので、きざんで、ソバやとうふの薬味にしたり、みそしるに入れる。くきが、ほとんどないのが、特長です。

かんそうだよーん

1さつの本で、これくらい、分かったことがあるので、「すごいなあ」とおもいました。わかったことよりも、ほかに(この本で)、「おもなさんち」と、「えいようとおじ」と「上手(じょうず)なほそん」があります。いろいろなことがわかりました。

野菜の選び方・調べ方図かん2
伊藤 正(写真)



はネギ

しもじ

下知の有名なねぎ

私たちは、みんなの知らない下知地区の昔から続くねぎの作り方を調べるため下知地区の有名なねぎ畑に行き特別な工夫などを調べてきました。



土をもりあげる 種をまく

こうんぎで土をもりあげます。《土の山20cmくらい》間を30cmくらいあけて種をまきます。



土よせ

ねぎの白い部分を作るために太陽の光にあてないようにするためにしるいカバーをします。



しゅうかく

1たばごとていねいに切っていきます。



これであなただもねぎ博士

カバーの特長 工夫



銀色

虫がこないし温度を変えないからねぎの作り直しがないです。



白色

中の温度をあげません夏でも大丈夫です。



黒色

中の温度を上げるから冬でもだいじょうぶです。



わらでひかいをふせぐ

野菜にわらをかけて台風や強い風の日などのひかいをふせぎます。

ねぎのカバー

私達は、ねぎを植える時に使っているビニールには何通りもの役目があり、そのビニールにも名前が決まっていたので、それにどんな役目があるのかを知りたいから調べました。

ねぎを守るカバー、マルチ



ねぎを植えているところに使っている黒いカバーは、「マルチ」といってポリエチレンで、できています。カバーで光を反射してむしよけになります。保温のため色は黒。季節によって色が変わります。(白色)カバーにはねぎを守るやくめがあります。ただのカバーではありません。

ビニール、マルチの取り付け方



マルチと言うカバーを、ねぎをうえたばかりのところにかけて土をかぶせます。なぜ土かと言うと、石より土の方がかぶせやすいし、重いからです。風が吹いてもカバーがとぶことはありません。

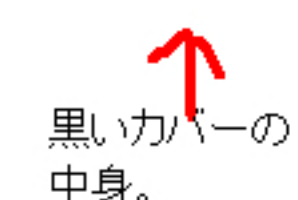


なぜ、下知

私は、校区で作っている下知のネギのことを、調べました。ネギを作っている人の所に何度も通って、手紙を交かんしながら、発見したことをまとめています。



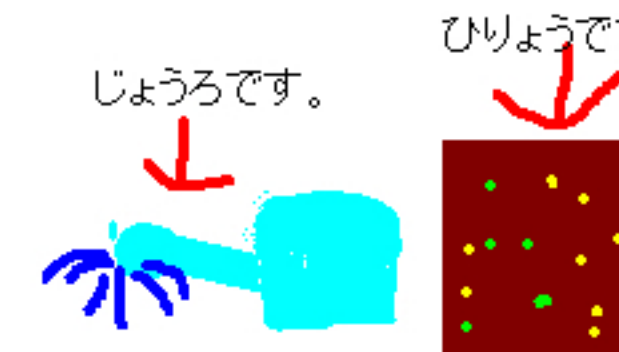
ねぎを植える前に、水とひりょうをやりませう。



黒いカバーの中身。



肥料(ひりょう)は、植える時にやりませう。なにもやらずに植えたらねぎが育たないからです。



6月ごろ、種をまいて、9月中じゅんごろ植えつけませう。肥料も一緒(いっしょ)にやりませう。もとごえというそうです。そうすると、お正月ごろしゅうかくできます。水をあまりやるとねぎは、やわらかくなってお店に出すのにはよくないです。

ねぎのおじさんについて苦労や、喜びきれいに育ったねぎにみずをやるのにしんちょうにやることが苦労だそうです。喜びはきれいに育ったねぎを見るときです。